

和歌山県における新規創業の3つのタイプ

－和歌山県におけるインタビュー結果からの分析－

黒木弘司*¹ 木野泰伸*² 牧野友祐*²

*¹ ソーシャルサイエンスラボラトリー *² 筑波大学

Three Types of Starting New Business in Wakayama Prefecture - Analysis on Interviews in Wakayama Prefecture -

Hiroshi KUROKI*¹ Yasunobu KINO*² Yusuke MAKINO*²
*¹Social Science Laboratory *²University of Tsukuba

中小企業庁によると、60歳以上の経営者のうち、50%超が廃業を予定しており、特に個人事業者においては、約7割が廃業を予定していると回答している。このことは、地域活力の停滞や低下の原因の一つとなっており、和歌山県においても同様の課題を有している。本研究では、和歌山県内における新規創業の成功事例となる企業にインタビューを実施し、テキストマイニングによる分析を行った。分析により明らかとなった和歌山県内の第二創業、VB、移住創業といった新規創業の3つのタイプ毎の特徴を基に、和歌山県における事業継続や新規創業を推進するための環境について考察を行う。

According to the Small and Medium Enterprise Agency, more than 50% of business owners over the age of 60 plan to close their business, In particular, about 70% of individual businesses replied that they plan to close their business. This is one of the causes of stagnation and decline in regional vitality, and there is similar issues in Wakayama prefecture. In this study, we have had some Interviews to the companies which succeeded in establishing a new business and analyzed by text mining. With the fact revealed by analysis, this paper reviews the environment to promote business continuity and starting new business In Wakayama Prefecture based on the characteristics of each of the three types of companies such as reborned in new businesses and fields, VB(Venture Business) and starting business after migration.

Key Words & Phrases : 新規創業, 第二創業, VB, 移住創業, テキストマイニング

Starting new business, Reborned in new businesses, VB, Starting business after migration, Text Mining

1. 研究の背景と目的

中小企業庁発行の「事業承継に関する現状と課題」(2016年)によると、60歳以上の経営者のうち、50%超が廃業を予定しており、特に個人事業者においては、約7割が廃業を予定していると回答している。このことは、地域活力の停滞や低下の原因の一つとなっており、和歌山県においても同様の課題を有している。

本研究では、和歌山県内(以下、県内)の新規創業の特徴を明らかにすることで、和歌山県における事業継続や新規創業を推進するための環境について考察を行う。

2. 研究方法の概要

初めに、新規創業の実態を確認するために、和歌山県庁職員の協力を得て、県内における新規創業の成功事例となる企業8社を選定していただきイ

ンタビューを実施した。

次に、インタビューの結果をテキストデータに書き起こし、KH Coder を利用して計量的に分析を行った。

3. 調査・分析結果

3.1 調査の概要

インタビューは、2018年10月1日～2019年3月18日にかけて行った。インタビュー対象となった企業の新規創業のタイプと業種は、第二創業(今までであった会社を引き継いでいるが、新たな分野で創業や新規のビジネスを行っている企業)は、業務用機械器具製造業、飲食サービス業、織物・パイル生地製造業の3社、VB(新規創業してベンチャービジネスを行っている企業)は、情報通信業、飲料製造業、衣服・その他の繊維製品製造業の3社、移住創業(和歌山県外から県内に移住してきて新規創業し、ビジネスを行っている企

業)は宿泊・飲食サービス業, 専門・技術サービス業の2社の計8社である。

各インタビューはおおよそ1時間であり, 創業, 第二創業に関する製品, そのビジネスが生まれる経緯, 苦労された点, ビジネスを立ち上げた方の考え方や信条等について半構造化インタビューの手法を用いて行った。

3.2 分析データの準備

分析データは, インタビュー内容を録音した音声を中心に, テキストデータに書き起こした。

次に, データに含まれる誤字や脱字, 「和大」と「和歌山大学」といった表記のブレがあると KH Coder は別の語として認識してしまうため, 誤字や脱字の修正や表記を揃えた。

最後に, ツールで抽出した複合語 3, 010 語から目視により「5本指靴下」や「ミンク加工」など単語に分けると意味が異なってしまう語や分析に必要となりそうな語として 929 語を選び, 強制抽出語として登録した。

3.3 共起ネットワーク分析

図 1 は新規創業のタイプを外部変数として 10 回以上出現するキーワードを対象に作成した共起ネットワーク図である。集計の単位は EXCEL のセル単位とし, 対象とする品詞は名詞, サ変名詞, 形容動詞, 固有名詞, 組織名, 地名, タグ, 描画数は 60 として共起ネットワーク図を作成した。

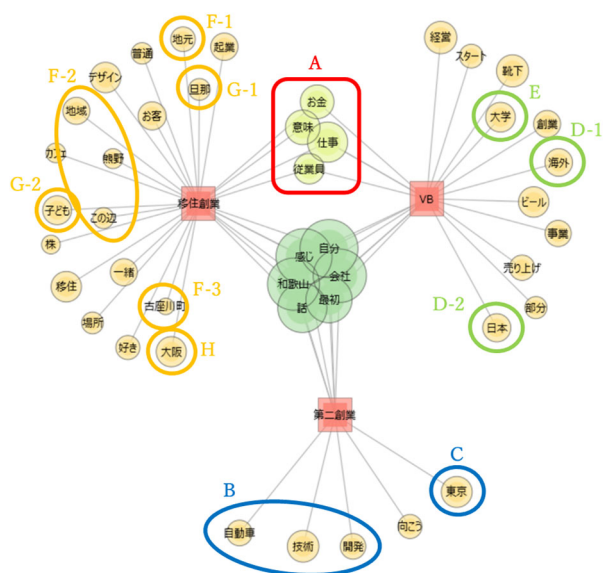


図 1. 新規創業のタイプからみた共起ネットワーク

3.4 分析結果

作成された共起ネットワークの全体をみると,

『自分』, 『感じ』, 『会社』, 『和歌山』, 『最初』, 『話』というキーワードは創業形態に関わらず共通してみられた。更に VB と移住創業では, 図中 A の『お金』, 『意味』, 『仕事』, 『従業員』というキーワードが共通して見られることから, VB と移住創業は, 第二創業と比べるとより似通った特徴を持っていることがわかる。このことは, 第二創業が今まであった会社を引き継いでの新規創業であるため, お金や従業員といった経営資源についてある程度揃っていることが推測され, 新規創業に当たって経営資源が関心事にはあまりならないと考えられる。

次に, 創業形態毎に見てゆくと以下のような特徴を確認することができる。

① 第二創業

図中の B に着目すると, 「自社技術」や「前職で身に着けた技術」などという使われ方をしている『技術』や「自分たちで開発する/した」などという使われ方をしている『開発』というキーワードが特徴として見られる。また, 『自動車』というキーワードもインタビュー中では「品質や納期, コストの面で要求が厳しい自動車部品製造に関わることで得られた技術」などという使われ方をしており, 『技術』の獲得方法を示している。このことは, 第二創業を成功させるためのポイントとして, 技術力や開発力が重要であることを示していると考えられる。

また, 図中の C に着目すると, 「東京に顧客が多い」や「取引先は東京が一番多い」などという使われ方をしている『東京』というキーワードが特徴として見られる。このことは, 第二創業を成功するためのポイントとして, 市場規模の大きい東京に顧客を持つことが重要であることを示していると考えられる。

② VB

図中の D-1, D-2 に着目すると, 「日本国内は行きつくした」や「海外展開を始めた」, 「日本で最初/唯一」などという使われ方をしている『海外』や『日本』というキーワードが特徴として見られる。このことは, VB を成功させるためのポイントとして, 海外に積極的に乗り出したり, 誰もやっていないことへのチャレンジといったマインドが重要であることを示していると考えられる。

また, 図中の E に着目すると, 「和歌山大学の先生との関わりが起業のきっかけとなった」や「大学とのつながりで仕事を受注している」, 「求人のために和歌山大学にコンタクトをとっている」などという使われ方をしている『大学』というキー

ワードが特徴として見られる。このことは、VBを成功させるためのポイントとして、大学との関わりがあることを示していると考えられる。

③ 移住創業

図中のF-1, F-2, F-3に着目すると、「地元のつながりのおかげ」や「地元の常連さん」、「地元の人への還元」などという使われ方をしている『地元』、「次の日はこの辺に住んでる人たちに任せる」や「移住のパンフレットにはなるべくこの辺を載せる」などという使われ方をしている『この辺』、「この地域に縁があった」や「地域の貢献」、「地域に入るために何をしたらいいのかな」などという使われ方をしている『地域』、さらに『熊野』、『古座川町』といったキーワードが特徴として見られる。このことは、移住創業を成功させるためのポイントとして、地域とのつながりや貢献などが重要であることを示していると考えられる。

また、図中のG-1, G-2に着目すると、「自然のある環境で子どもを育てたい」や「子どものそばで働きたい」、「地域の方々が子どもを見てくれているので安心感がある」、「子どもをそんな学力の低い所に連れて行って将来のこと考えてるのかと言われた」、「子どものいる家庭は地域に受け入れてもらいやすい」、「ここは子どもが合わなかった」などという使われ方をしている『子ども』、「旦那や子供に移住について相談した」や「旦那が面白そうや、ええんちゃうって言ってくれた」などという使われ方をしている『旦那』といったキーワードが特徴として見られる。このことは、移住創業を成功させるためのポイントとして家族の影響が大きいことを示していると考えられる。

さらに、図中のHに着目すると、「移住前は大阪に住んでいた」や「大阪の大学を卒業」、「大阪の顧客との契約が断トツ」などという使われ方をしている『大阪』といったキーワードが特徴として見られる。このことは、移住創業では地域とのつながりを重視し、和歌山県や大阪府といった比較的狭い範囲で活動を行っていることを示していると考えられる。

4. 結論

テキストマイニングによる分析の結果から、新規創業には、第二創業、VB、移住創業といったタイプ毎で異なる特徴を持つことが明らかになった。今回明らかになった特徴から、和歌山県における事業継続や新規創業を推進するための環境について、次のような示唆が得られた。

第二創業では、技術力や開発力が重要であることや市場規模の大きい東京に顧客を持っていることが重要であることが示されていた。この結果から、現在の会社が東京に多くの顧客を持っている会社ほど、第二創業に向いており、第二創業を推進するためには、現在持っている技術力を高めたり、新たなビジネスに向けた開発力を身に付けさせるための環境を整えることが有効と考えられる。

VBでは、海外に積極的に乗り出したり、誰もやっていないことへのチャレンジといったマインドの重要性や大学との関わりが重要であることが示されていた。この結果から、メンターの様な寄り添った支援やチャレンジに失敗したケースも考慮した金銭的な支援などのセーフティネットを設けるなどチャレンジを躊躇させない環境の整備や和歌山県から海外進出するための玄関となる関西国際空港とのアクセスの改善などの対策などが有効と考えられる。また、大学で研究されている地元課題の提示や解決に名乗りを上げる人材の募集や海外に積極的に乗り出したり、誰もやっていないことへのチャレンジといったマインドを持った人材の育成と供給体制の整備などの対策が有効と考えられる。

移住創業では、地域とのつながりや貢献が重要であることや家族の影響が大きいこと、さらに和歌山県や大阪府といった比較的狭い範囲で活動を行っていることが示されていた。この結果から、地域の受け入れ体制や移住者へのオープンな風土の醸成、創業による地域への貢献内容の明確化などの対策が有効だと考えられる。また、子育てに適した住環境や教育体制の整備、家族の働き先の創出／斡旋など、創業者本人以外の家族に対する対策が有効と考えられる。そして、大阪府に向けた和歌山県での移住創業の宣伝広告活動や既に創業している移住創業者のビジネス支援のために、県内や大阪府に向けた情報発信のツールの準備などの支援も有効と考えられる。

参考文献

- 中小企業庁 (2016), 事業承継に関する現状と課題について。
<https://www.chusho.meti.go.jp/koukai/shingikai/kihonmondai/2016/download/161128kihonmondai03.pdf> (参照 2020-07-05).
- 樋口耕一 (2014). 社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－, ナカニシヤ出版.